

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2794800033		
法人名	社会福祉法人はるかぜ福祉会		
事業所名	グループホーム華まつばら		
所在地	松原市松ヶ丘1丁目10番61号 (2階)		
自己評価作成日	平成26年5月1日	評価結果市町村受理日	平成26年6月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 MIRO谷町4階		
訪問調査日	平成26年5月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

併設されている通所介護と連携する事で、施設またはユニットごとのケアに局限されないよう努めています。また、日々の生活を支える健康面については、協力医療機関と連携し、持病の管理だけでなく高齢者に多くみられる「痒み」や「痛み」といった症状にも適切に対応しています。開設して3年に満たない事業所ですが、新しいご利用者様との一つ一つの出会いを大切に、その方のもっている「強み」やその方「らしさ」を生かし、充実した日々を過ごして頂くか、新しい施設だからこそ従来の方法にとられないケア提供を考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成23年7月に開設した事業所は24年5月に社会福祉法人として大阪府から認可を受け、3階建ての2・3階部分にあり、1階にはデイサービスが併設されている。隣接する羽曳野市に母体である医療法人があり、病院・介護老人保健施設2ヶ所・グループホーム・居宅介護支援センター・在宅介護支援センター・訪問看護ステーション2ヶ所を運営している。職員は法人全体で開催する研修会に参加し研鑽したり、分からない事があれば何時でも相談できる環境にあり、利用者家族には健康面で安心感に繋がっている。事業所は各種委員会を立ち上げ、職員は役割を担い、日々話し合いサービスの向上に努めている。職員は順番に手作り料理を担い、調理、味付けもしている利用者の達成感に満ちた顔や皆が楽しく会話しながら食している食事風景はまさしく事業所の理念に沿って実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念作成し、地域密着サービスとしての位置づけは開設時及び入職時に研修を実施。但し、実践としては、これまでと同様新興住宅地という地域がら(町会がない等)行っていない。	地域密着型サービスの意義を理解し、その人らしい生活が送れるように支援をするという分かり易い言葉で理念を掲げている。理念を掲示し、職員の共有を図り、それに沿った実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	できていない。	残念ながら事業所が位置する所には自治会組織が無く、現在は空白地帯となっている。市の社会福祉協議会と話し合い、地域のボランティアを受け入れていると共に年1回保育所の園児が来訪している。	市や今後認知症の方に対する関わりがより重要となる地域包括センターとの協働を働きかけ、地道に地域住民との触れ合いの機会を増やす事が望まれる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	松原市の委託事業として家族介護者教室を開催予定。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今のところ活発に意見交換が行われるほどの状況は発生していない。	市職員・利用者・家族の参加を得て年6回開催している。自治会組織が無く、民生委員等にも働きかけを行なったが現況参加に至っていない。報告事項だけでなく参加者から意見を聞くようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を窓口になっている。	市役所が近いので市に出向き、分からないことがあれば聞き、助言を得るようにしている。市と協働し今年は「在宅介護教室」を事業所が担い、地域住民に開催する予定である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全管理上の施錠(非常口やエレベーター、玄関)は継続。それ以外の場面では、拘束につながるような行為はみられず理解されている。	原則身体拘束を行わないことを明示している。開設以来まだ経験もしていないがマニュアルを整備し、定期的な研修を実施し職員の共有を図っている。玄関は施錠しているが外出シグナルには対応するようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	人権研修の折に触れている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	権利擁護について研修機会を設け、その理解を深める事に努めている(平成25年9月外部)		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時には対面で読み合わせを行い、内容の理解について確認している。改定時にはその都度事前案内を郵送し、面会時等窓口にて対面で説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	窓口における支払対応時などの機会にお会いできたご家族様にお声掛けしている。	家族が来訪した時や介護計画の見直し時に利用者ごとの状況報告だけでなく家族の要望や意見を聞くように努めている。得られた情報は皆で話し合い、運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議と管理者及び介護主任による会議での連携を図る事で、職員の意見をきく体制を整えている。	行事・研修等各種委員会を作り、委員会ごとに役を担った職員はチームで話し合い、改善を図っている。職員会議でもホーム長兼管理者は職員1人ひとりに意見を聞くように努め、運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所毎及び個人毎の年度目標を、職員で自主設定し、半期毎に自己評価を行う事で職員の向上心を高めている。また、特筆すべき実績を上げた者を表彰する「理事長賞制度」もある		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	系列法人での研修参加の促しとともに経験に応じた外部の研修機会を設けている。また、それらのフィードバック研修を併設事業所と共に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	併設事業所の連絡会を通じた交流、他施設の運営推進会議への参加などにより事業所間の交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者(計画作成兼務)と介護主任及びフロアリーダーが中心となりご本人様だけでなくご家族様からの情報にも配慮して関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時、入所直前および入所後の面談時に「どのようなことでもおっしゃってみてください」と声をかけている。また、時間経過とともに変わる思いの変化の確認も行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護保険利用の流れや窓口となる事業所の案内、施設の紹介など、ニーズに応じたサービスの紹介を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	得意なことを中心に役割を担って頂く事でお互いの存在を認め合える声掛けに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様だからこそわかる事があることを説明しご協力願っている。サービス担当者会議への参加を依頼し、直接お話しする機会を設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に利用していた理髪店を継続して利用できるよう支援。買い物へ行っていたスーパーに出かけたり、よく利用していた飲食店に出かけたりもしている。	以前に利用していた施設の知人や昔の友人が来訪されている。馴染みのスーパー・飲食店・理髪店に出掛けたり、実家に帰ることも支援し、馴染みの継続を切らさないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の進行の程度により変わっていく関係に注意しながら、談笑したり活動できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院後しばらくは本人、家族の様子に注意しお困りの事がないか声をかけている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでの暮らしぶりを日常生活の何気ない場面で話題にすることで聴き取りに努めている。直接的に希望する機会が少なく、話の内容を家族に確認しながら思いを汲みとるよう努めている。	入所時に過去の生活歴等知り得た情報は職員皆が共有している。職員は利用者ごとに担当制による現状把握を行ったり、利用者・家族と繰り返しの話し合いから本人本位の思いに沿う様に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	何気ない会話の中で話題にしたり、家族にも聞き取りを行ったして把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録、定期的なアセスメント及びカンファレンスにより把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議に先立ち、スタッフ内でのカンファレンスおよびサービス内容のモニタリングを行い計画作成に生かしている。	利用者ごとに担当者を決め、日々の利用者状況を把握し、月1回モニタリングを実施し、チームでカンファレンスを行い、介護計画を作成している。3ヶ月に1回見直しを実施しているが急変時には即対応するようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録及び申し送りノート、ヒヤリハット・インシデントレポートといったツールを活用して情報共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われなない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所の対応をこえるニーズが発生していない状況であるが、施設の姿勢として一つ一つのニーズ実現に職員が前向きに考えられるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	認知症の進行や身体機能の低下により徐々に減ってきているが、なじみのタクシーを利用したり理髪店に出かけるなど、これまでの生活で関わりを把握できる範囲で大切にしよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族に希望により協力医療機関を利用される方が多い。往診だけでなく、その時々々の症状に応じて受診を支援している。	利用以前のかかりつけ医に受診していた方もあったが現状家族の希望により、内科は毎週往診している協力医療機関がかかりつけ医となっている。事業所に看護師もいるので症状により、受診支援も行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	少しの変化も看護職に相談、報告がある。協力医療機関と看護職との連携もとれており、適切な医療が受けられるような体制がとれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中の状態について把握に努め、退院について病院関係者との話し合いを行う。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期については、事業所での対応可能な範囲とリスクについて説明。また、主治医の意見も参考にしながら本人・家族の思いを具体化できるよう支援している。	過去に1人だけ重度化になった方がいたが、家族の希望で救急対応で病院に入院した。看取りの対応指針を作成し、早い段階から家族に説明をしている。看護師配置や医療連携体制は整備している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	昨年度は、救急時の対応についての研修を併設事業所とともに行った。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回の消防訓練で消防隊の協力を得て避難訓練を行っている。	年3回、消防署の指導も受け、避難誘導訓練を実施している。新しい建物故、当初から消火設備等は設置しており、廊下が広く避難誘導はしやすいように工夫している。夜間時に於ける手順書も整備している。	夜間1人体制時の火災に関し、現状地域の協力が難しい故、煙対応や近隣職員への連絡は日本認知症GH協会の調査研究報告書を参考にし、より実践的な訓練の実施を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	格式張らず親しみが持てる程度に言葉遣いに注意している。また、指示的な声掛けを行わず、自己決定に結び付けるように努めている。	法人研修にて「接遇」を定期的に行い、親しき仲にも呼称等の取決めもして、職員は共有している。利用者の尊厳を大切に、本人本位の自己決定につなげるように支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いを表出できるような声掛けに努めている。また、行動や表情変化にも注意することですこしでも表現できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度規則正しい生活を送って頂きながら、時間にゆとりを持たせることで本人のペースを守れるよう努めている。希望なのか認知症の影響なのかを見極めるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一緒に服を選んだり、外出時の身支度を整えたりしている。また、ご家族様にも本人の希望を伝えるなどして、その人らしく過ごせるよう協力して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	炊飯準備や盛り付け、テーブル拭きや配膳、後片付けなど役割を持って頂いている。	献立や食材は法人全体で行い、職員が交代で手作りしている。調理・味付けも出来る方もおり、楽しく会話しながら完食している食事風景は利用者の笑顔で満ち溢れている。イベント食や外食も定期的に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好みや咀嚼・嚥下能力に応じて食事や飲み物を提供している。摂取量は毎食ごとにチェック。希望やくつろいでいる時、活動後等に飲み物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア、夜間の義歯消毒を行っている。希望者は協力歯科の口腔ケア指導を受けており、その内容に応じて見守りや介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のサインを見逃さないように努めトイレ誘導している。やむを得ずオムツを使用している場合も、時間帯や希望時にはトイレでの排泄を介助。オムツ交換も適時行っている。	排泄パターンを把握し、日中は自立で排泄が出来るように支援している、薬に頼らず、水分をこまめに補給したり、工夫したおやつ提供を心がけている。排泄研修も法人全体で実施している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居前から緩下剤を服用されている入居者が多い。水分をこまめに摂って頂いたり、食後にトイレ誘導するなどして自然排便を支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	介助状況にもよるが、声掛けして「入りたい」と思って頂いた時に入浴して頂いている。できるだけ好みに応じた入浴を支援しているが、体調不良をきたしやすい入居者もおられ負担にならないよう注意している。	週3回は入浴が出来るように支援し、利用者ごとの希望に沿った時間や頻度に応じている。嫌がる利用者にも工夫したり、足浴やシャワー浴も併用している。ゆず湯やレモン及び花びらが入った入浴を楽しんでいる	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や睡眠の具合によって午睡を支援している。また、一人ひとりのリズムに合わせて就寝、起床時間の目安を設定している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局からのお薬の説明書があり、いつでも確認できる。変更時には主治医や薬剤師からの注意事項を看護職から伝え、効果や副作用の観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事の中でできることをして頂いたり、得意なことに取り組んで頂いたりしている。また、散歩や買い物に出かけるなどの気分転換も支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候や天候を見ながら近所の散歩に出かけている。ご家族様にも協力して頂きながら、入居前にも出かけていたところへ外出して頂いている。	天候が良い日は近隣の公園を散歩したり、スーパーへ買い物に出掛けている。車を使って神社での花見や遠足に出掛けたり、本の好きな方への図書館利用も支援している。外食も定期的に行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居前の生活の様子によって対応している。入居者自身がお金を所持したり使ったりする習慣があった場合には、できるだけ同じように継続できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様への電話やご家族様からの電話の取次ぎなどを支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温計や入居者の反応を見ながら温度管理を行っている。また、照明や採光にも注意し、まぶしくなりすぎない様にも配慮している。季節ごとの飾りなどにより季節感を持たせる事にも配慮している。	居間兼食堂はゆったりとして採光もよく、静かな音楽が流れ、落ち着ける雰囲気がある。個浴の浴室やトイレも違和感がなく清潔であると共に廊下が広いので安心感がある。所々の壁には季節を感じるカレンダーや貼り絵及びイベント時の写真が飾られている。ベランダには季節の花を植えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士の関係性を見極めながら座席に配慮している。また、座ったところから見えるものにより不安を感じやすい人には座る向きにも注意し落ち着いて過ごせるように気を付けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人でゆっくり過ごせるようにテレビを設置していただいたり、家族の写真を飾ったり装飾品を置いたりするなどその人らしい空間づくりを家族の協力を得ながら行っている。	慣れ親しんだ家具等を持ち込み、自宅と変わらないように支援している。テレビや本棚等利用者ごとの思いに沿った物を置き、居心地良く過ごせる居室となっている。壁には写真等が飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前には本人が作成した表札を設置。トイレとそれ以外部屋の扉の色を変える事で、分りやすいように配慮。		